

マイクロプラスチックへの見解

マイクロプラスチックの塩への混入についての論文が出た後すぐに、弊社より環境省などにも問い合わせをしましたが、現在日本では検査をする機関はないとの返答でした。

ただ、弊社としても安心安全なおいしい塩をご提供するために、疑問を抱くお客様に誠実にお答えできるよう誠意を持って調べましたので、分かる範囲ではありますが、ご回答させていただきます。

下記論文（参考資料として下記に URL を貼り付けております。）には、表層水を塩田に引き込むということ自体がマイクロプラスチックが混入する一番の要因として挙げられています。

この点につきましては、弊社では深層海水と地下水がまざった、地中深くの海水を原料としておりますので、基本的には軽く浮く性質のあるマイクロプラスチックは入り込みにくい環境であると言えます。さらに、海洋にそのままパイプを下ろす海洋深層水とは異なり、井戸のように地中にパイプを下ろして岩盤を浸み出した海水を汲み取る深層海水を焚き上げておりますので、天然の濾過装置を通った原料と言えます。

また、弊社では最終的に焚き上げる前に、10 μ m の濾過装置を通しております。論文にて発見されたマイクロプラスチックの最小値は、160 μ m です。この点からも、塩への混入を防いでいるのではないかと考えられます。

この論文を拝読して、弊社の塩には含まれているのは考えにくいというところにいきついて安心したのと同時に、改めて人間の「開発」という名のもとに自然へどれだけの影響を与えてしまったのかと、地球に申し訳なく感じています。

前述の通りマイクロプラスチックは非常に軽い性質があるため、空気中にも舞っており、人が摂取してしまうマイクロプラスチックの約 80% は空気中からであり、塩からの摂取は 6% に相当するという見解が発表されています。空気中から摂取するというのは、例えば衣擦れなどが挙げられます。化学繊維で作られた洋服は、衣擦れや洗濯の度に繊維がちぎれ、マイクロプラスチックになってしまっているということです。

マイクロプラスチックをこれ以上増やさないためにも、私たちが毎日着る洋服の素材、歯磨き粉などの素材（ホワイトニングをする小さな青い粒などはマイクロプラスチックです。）、環境のために使っていると思っていたアクリル毛糸のエコたわしなどなど、私たちの身の回りの素材を見直し、まずはマイクロプラスチックを出さないように心がけるところも同時に気を付けて参りたいと思っております。

以上、わたし達の見解と、マイクロプラスチックをこれ以上増やさないためのポイントをお話させていただきました。みなさまの暮らしのヒントになれば幸いです。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

OHSHIMA OCEAN SALT 一同

* 参考資料：<https://www.nature.com/articles/srep46173#abstract>